

KEYWORD

《 技名 》

丹輝劍訣・流陽凌日 [たんきけんけつ・りゅうようりょうじつ]

飛霞行月による飽和攻撃。氣功の刃を同時に幾つ操れるかによって、護印師としての格付けが決まるとも言える。

枯骨・血斬 [ここつ・けつざん]

受け止めれば力で押しきり、回避すれば立て続けの追い討ちで逃げ場を奪う渾身の力業。ただし防御が疎かになる捨己の技でもある。

拙劍無式・八方氣至 [せっけんむしき・はっぽうきし]

敵の攻撃を紙一重で避けつつ氣力を放出して態勢を崩させる。単純ながらも極めつけの見切りを要求される高難度の技である。

丹輝劍訣・烈華誅夜 [たんきけんけつ・れっかちゅうや]

護印師 [ごいんし] の基本技。夜間、および瘴気の立ちこめた不浄の環境でも十全に清めた氣功を操ることができる。

枯骨・碎腑 [ここつ・さいふ]

全身の経絡をわざと暴走状態に駆り立て、自らを氣功エネルギーの爆弾に変えて体当たりを仕掛ける禁断の技。たとえ実力に隔たりがあろうとも捨己を覚悟すれば相撃ちを狙える。

殺劫・黒禽夜哭 [きつごう・こっきんやこく]

他人が放出した闘気を吸収して自らの氣功に上乘せする秘技。合戦場のような多人数の乱戦の場では絶大な威力を発揮する。息をするかの如く日常的に他人の殺意を浴び続けた修羅だけが会得できる技である。

赫雷撼天 [かくらいかんでん]

捲残雲が修得した中でも最強の威力を誇る技。全身の経絡を駆使した呼吸法で天地の雷気を丹田に呼び込み、集束して一気に解き放つ。

役魔陣・暴亂黄泉 [えきまじん・ぼうらんこうせん]

伝承上の魔神を仮想敵に設定した上で編み出された秘剣。役魔陣における最大の奥義であり、人間でこれを凌げる剣士はいるまいという確信が、蔑天骸に絶対的な自信を与えていた。

須彌天幻・劫荒劍 [すみてんげん・ごうこうけん]

星空の彼方より訪れた剣匠が鍛えたとされる異形の魔剣。これを制御し得るには尋常ならざる氣功の練度が要求される。

洪荒禁窮獄 [こうこうきんきゅうごく]

宇宙の何処かにあるという「底なしの闇」へと繋がる穴を出現させる劫荒劍の最終形態。落ち込めば最後、どのような力を用いても決して外に逃れることは叶わない。この暗黒の吸引力は劫荒劍の刃によって傷を負った対象のみに作用し、他の事物には影響を及ぼさない。